

第15回 紀の川市子ども・子育て会議
議事概要

日 時	令和2年1月24日（金） 午後1:00～2:25		
場 所	紀の川市役所 2階 市民協働スペース		
出席者	(順不同敬称略) 【委員】 金川委員（会長）、橋本委員（副会長）、青木委員、藤田委員、矢野委員、 稲垣委員、忠岡委員、土橋委員、淡路委員、山本委員、長岡委員、 塚田委員、山野委員 【事務局】 榎戸、嶋田、前田、飯干、楠井、西 (株)ジャパンインターナショナル総合研究所 中嶋		
欠席者	4名	傍聴者	なし
議 題	(1) 第2期紀の川市子ども・子育て支援事業計画案について (2) 特定教育・保育施設の利用定員について (3) その他		
資 料	資料1 第2期子ども・子育て支援事業計画案 資料2 第2期子ども・子育て支援事業計画概要版案 資料A 特定教育・保育施設の利用定員について 資料B 紀の川市の教育相談等		

1. 開 会

2. あいさつ

金川会長 今回は、本年度最終の会議となり、第2期計画の最終確認をいただく。また、この間の特定教育・保育施設の状況等の報告と、前回の会議での質問に答える形で、学校での相談体制について報告がある。それぞれ重要な課題なので、活発なご意見等をお願いしたい。

3. 議事

<議題(1)「第2期紀の川市子ども・子育て支援事業計画案」について、事務局よりパブリックコメントの結果や修正点などを説明>

事務局 パブリックコメントを令和元年 12 月 1 日から 31 日にかけて実施した。その結果、閲覧が 1 名あったが、ご意見はなかった。

(加えて、事務局より計画書の修正点を説明)

金川会長 ただいまの内容で、計画書をご承認いただけるか。

(異議なし)

金川会長 では、承認とする。

<事務局より、計画書の概要版について説明>

金川会長 計画書と概要版について、ご意見やご質問はあるか。

青木委員 基本目標 2 に関して、教育分野における幼児教育の重要性をいかに盛り込むかが重要だと何度か言ってきた。前期計画策定からこの計画の策定までの間に、幼児教育・保育の分野で非常に大きな変化があった。国が教育指針や幼稚園教育要領などを見直し、生きる力とか、21 世紀型の教育の提案がなされている。子どもたちがどういう力を身に付けていかなければならないか、その大きな転換点にある。

もうひとつの転換として、幼児教育の無償化がある。幼児期の教育が大事なので、無償化しようということだと思う。

こうした大きな変化がある中で、この計画の位置付けも大きく変わる。今回は全国の自治体が内容を重視した策定をしてくるだろう。その中で紀の川市として、幼児教育の重要性をこの計画に入れることができるのか、その重要性は高い。今の段階で計画の修正が難しいのなら、実際の施策でその点を踏まえていただけるとありがたい。

事務局 青木委員のご指摘を受けて、計画書 64 ページの「(1) 子どもの生きる力を養う教育の充実」で、「幼児期からの人権教育を通じ、子どもたちが個性を伸ばし、生きる力を身に付けるような教育を推進する」などと表現を修正している。施策 36 にも「幼児期からの人権教育の推進」など「幼児期からの」を追記したり、37 番も表現を修正した。

青木委員 生きる力を養うという中で、(この書きぶりでは) 幼児期からは人権教育のみと捉えられる。もう少し中身や環境の充実があつてこそ、生きる力の充実に通じる。

金川会長 表現を課内で最終調整していただいて、(青木委員の) 意図が反映されるような

ものをお願いできればと思う。

概要版では、こういう計画があるということが市民にわかることが大切だ。計画書の中で新規事業や重点事業を入れているが、概要版にも紀の川市として力を入れたい事業を入れるなど、市民が相談してみようかと思うような仕掛けが必要だ。目玉政策をPRするものいいかもしれない。

最終ページの「計画の推進体制」のところで、はぐくみサポート紀の川などの電話番号が記載されているが、電話がつながる時間帯がわからない。また、大学の学生相談では電話が少なく、メールが多い。言いにくいからメールで、という人が多い。メールのアドレスとかLINE、QRコードなどがあるとよい。概要版は配布するのか。

事務局 市民への配布はしないが、本会議の委員や議会、関係団体等には配布し、ホームページにも掲載する。

金川会長 概要版は承認していただけるか。

(意見なし)

金川会長 では、承認とする。

事務局 再度変更した上で、最終確認は委員長確認でよいか。

金川会長 正・副委員長と、ご指摘があった青木委員との確認でお願いします。
では次の議題に。

<議題2「特定教育・保育施設の利用定員について」事務局より、資料Aに基づき、令和2年度私立幼稚園・認可保育所と学童保育の申込状況等を説明>

金川会長 学童保育では、粉河アットホームクラブで待機児童が23人出ているが、これは続いていきそうか。

事務局 粉河に限らず、指導員不足がネックとなっている。施設のキャパシティは余裕があるので、それを解消できれば解決できる。傾向としては4月1日が最も多く、月が経るごとに退所者も出るので、そこで吸収できるかと考えている。

金川会長 他に、ご質問はあるか。

ないようなので次の議題へ。

<事務局より、資料Bに基づいて、不登校児童生徒支援員や、訪問支援員、スクールソーシャルワーカー・カウンセラー、教育相談員、適応指導教室相談員の状況について説明>

金川会長 ただいまの件について、ご質問はあるか。

青木委員 説明のあった支援員などは、保育園や幼稚園に行く人とは別か。所属はどこになるのか。

事務局 こども課の相談員とは別で、県に所属して市に配置されている人と、市の教育委員会に所属している人、フリーで委託している人がいる。

青木委員 幼稚園や保育園から小学校へあがると、子どもたちにとって環境の変化が大きいが、幼稚園や保育園の先生と一緒に小学校へついて行くことは無理なので、子どもの育ちを理解し、縦断的に支えるような人がいるとありがたい。

事務局 教育委員会に早期支援コーディネーターを2名配置しており、支援学級など学校において支援が必要な子どもの保護者に対し、幼稚園や保育所の保護者会で説明を行っている。また、小学校の検診の際に学校に行き説明や相談先の紹介などを行っている。各保育所も回り、子どもの様子を聞き、その子の小学校での様子も見ながら、学校の相談にのったり助言をしたりしている。

稲垣委員 何年か前と比べると、小学校と保育所との連携ができてきている。気になる子の発達相談などをするとき、子どもが生まれた時から関わっている保健師が入って、過去の資料も全部用意して、先生にも入ってもらって、小学校につなげている。しかし、小学校にあがったときに、相談が切れているように思う。子どもの成長は続くので、成長を継続してみていくことが大切だ。

事務局 平成26年度から希望に応じて、個別の教育支援計画を入学前から作成し、入学後につなげている。学校は学校の中で解決しようというところがあったので、保健師への相談を提案したり、幼稚園や保育所時代の様子を確認したりといった対応をしている。生まれてから小学校へ入るまでの経過も、小学校に伝えていけたらと考えている。

- 金川会長 そうしたことを続けていくうちに、経験が増えていく。
本日の会議は今年度最終となるので、みなさんからひとことずつお願いしたい。
- 青木委員 総人口が5年後には7千人減るという中で、いかに子どもを産み育てやすく、子どもが生きる力をつけていけるかということを大人が考えていかなければならない。
- 藤田委員 勉強させていただいた。子どもたちといかに関わるかが大事だ。教育委員会やこども課の方々から教えていただきながら、現場を一生懸命やっていきたい。
- 矢野委員 親子料理教室とか学童保育の午後7時以降のサポートとか、子育ての事業は単発で入ってくる。親子のつながりを考えてはいるが、親は子どもを行かせるだけで一緒に行こうとはしない。子どもの生きる力を育ててやりたいという思いがあるので、情報があふれる中で、子どもの発達に情報をうまく使えたらいいなと思っている。
- 稲垣委員 学童保育の施設の充実など、大人目線で子育てしやすくなっているが、子どもにとって幸せかどうかは、それとは別の問題だ。この会議では大人目線になりがちだが、国全体が幼児教育が大切だと言っている。それは数字や形に表れないことなので測ることはできないが、子どもの力を引き上げる施策ができる市であってほしい。
- 忠岡委員 紀の川市は保育所と保健師のつながりが強い。情報交換もでき、いっしょに相談しながらやっていけているので、そこを前面に出せばよい。保育士が不足する中で、保育士の質の向上のために、条件の見直しや研修機会の充実などをしていただけるとありがたい。
- 土橋委員 相談先がたくさんあることを知ったが、電話だと相談しにくいし、自分の子どもは支援が必要だということを受け入れない保護者もいる。面談の前に、気軽に相談できるようになればよいと思う。
- 淡路委員 AIの発達で将来は仕事がなくなるといわれる中、教育も変わってくるだろうし、受験対策も変わってくる。そのような点について情報交換の場があればよいと思う。スクールカウンセラーに関して、個人情報の保護はどこまで（しなければならぬのか）ということがある。あるお母さんが、学校の先生が悩み

をわかってきていると思っていたのに、そうではなかったので傷ついたという話があった。保護者としては、先生がみんな、子どもの悩みを共有してくれていると思っていたのに。

事務局 カウンセラーには守秘義務があるので、命に関わることでない限り、守秘しなければならない。情報を共有してほしい旨、カウンセラーに伝えていただけるとありがたい。

山本委員 基本理念にあるように、地域で支えるのであれば、誰もが計画の内容を知っていないといけない。配布は限定的という話だが、みんなに知ってもらうようにしたほうがよい。

事務局 広報やホームページに掲載するが、その載せ方を工夫したい。

金川会長 広報で、何ページにもわたって、特集のスペースを確保することはできないか。広川町ではかつて、広報 20 ページのほとんどを認知症対策に割いたことがあって、進歩的だということでヤフーニュースに出て、取材もいくつか入ったことがある。私も度肝を抜かれた。

長岡委員 親の考え方がここ何年かで激変している。子どもたちは友だちとのやりとりがLINEばかりで、電話番号も知らない。メールも長い文章を書くのも受けるのも嫌がる。(子育ての)公式LINEをつくっていただけたらありがたい。難しいかもしれないけれどQRコードもあればよい。学校の先生に相談するよりは、直接(カウンセラーなどに)連絡できる方法を考えてほしい。担任の先生には言えないこともあると思う。

事務局 申込は学校を通じてだが、その後は、子どもまたは保護者とカウンセラーとの関係となる。

金川会長 自治体によっては、学校にいるカウンセラーのところに直接行けるところもある。

塚田委員 自分の子どもは叱って育ててきた。いま孫に叱ると、虐待かと言われる。過敏になっている気がする。これまでのやり方が、孫には通用しない。ゲームをやめないでゲーム機を取り上げたら、孫から「虐待か」と言われる。時代の変わりがきていると、つくづく感じる。

山野委員 近年の問題として少子化や人間関係の希薄化などがいわれるが、その中で地域であたたく見守るという視点が入っている。教育委員会としても、地域に支えられながら、地域とともに発展する学校を目指しているので、よろしくお願いします。

橋本委員 今年には計画の策定に向け、皆さんからたくさんのご提案、ご支援をいただいた。アンケートでは課題が明らかになり、現場の情報も聞かせていただいた。新鮮な意見もあった。今後5年、10年で社会情勢は今までにないほど大きく変わってくるだろう。同一労働・同一賃金など、雇用形態も変わってくる。社会で子どもたちをみる、高齢者をみるということについては、たくさん課題があるが、この計画を指標として、これからの子育てに職員一同取り組んでいきたい。皆さまのご意見も賜りながら、変化に対応していきたい。1年間ありがとうございました。

金川会長 皆さん、ていねいに取り組んでいただいた。これからは質が重要になる。紀の川市がこれほど保健師と保育所のつながりが深いということ、学校の教育相談をこれほどこまめにやっているということにいまさらながら知った。このように質の面で紀の川市が子育て支援に力を入れているということをアピールして、子ども視点でいいものにしていければよいと思う。

6. 閉 会